



Dental Blue Ocean計画

五期生

修了文集



【DBO計画/五期修了生】



2026/03/15

目次

【テーマ】

～DBO計画に参加して/これから歯科医療人として何を成すか～

DT.石垣 翔汰 1P

Dr.糸日谷 洋大 2P

Dr.黒田 昌崇 3P

DT.鶴見 陽 4P

Dr.平野 哲章 5P

Dr.藤森 亮平 6P

～あとがき～

石垣翔汰

新東京歯科技工士学校 2025年度卒

「DBO受講生としての一年」

この一年技工士になってさまざまなことを学ぶ機会が多くありました。私自身院内技工士として日々歯科治療の現場を見ながら技工に励んでいます。技術も経験も足りないと実感する日々です。そんな中DBO受講生として臨床においての心がまえや技術/知識を学ばせていただき、さらには一緒に勉強をしてきた歯科医師/歯科技工士とともに歯科治療に対する熱量をともに高めた一年間でした。

一年を通して早川先生の臨床ケースのプレゼンからテクニックや知識そして物事に対する見方や相手を重んじる行動などを学んできました。特に学生時代には触れることのなかったジルコニア修復に関しては知らない事ばかりでジルコニアの特性だけでなく一人一人の歯の色調の再現の難しさや歯の形態の重要性など現在自分が臨床の現場で行なっているプロビジョナルレストレーションやクラウンの製作、今後携わっていく審美修復で必要になってくることを知ることができたのはとても大きな経験です。またこのセミナー中にはともに参加している歯科医師の先生方それぞれの治療時の技工物に対する疑問や考え方など、先生方それぞれの患者様の治療に対する熱い思いを感じ取りながらプレゼンを聞くことができました。日々の業務で疑問に思っていることを同期の技工士たちとともに知識として得られたことも大変貴重でした。

また臨床ケースのプレゼンだけでなくシェードなどの写真の撮り方から色の再現をするための歯の見方やポーセレンパウダーのレシピの作成、築盛などのテクニックを直接見させていただきました。シェードテイクではほとんどカメラを触ったことがありませんでしたが、実際に受講生の口腔内を取らせていただくことで難しさだけでなくカメラの扱い方、特に光の反射の重要性を直接手で触り実感しながら学ぶことができました。また受講生各自のプレゼンテーションの発表では恥ずかしながら歯列彫刻について実際に彫り資料としてまとめて発表させていただきました。形の捉え方や咬合理論などこの勉強会で学んだことを頭の片隅に入れながら製作し、ドクターの先生方や技工士そしてカービングを教わってきた早川先生に対してプレゼンテーションをできたことが大変自分にとってかけがえのない経験となりました。

今後の目標としてより修復物の精度を上げるために定期的にカービングの練習を行い、毎年行われているカービングコンテストにも参加をして最優秀賞を受賞することを目指します。

最後に歯科医師の先生方や衛生士/助手さんなど歯科治療に関わる方と良好な関係をこれからも築いていき、患者様に適した被せ物を作れるよう精進して参ります。

【DBO計画に参加して/歯科医療の発展に向かって】

卒業してから14年が経過しました。少し臨床ができるようになった時期には、印象採得してセットするときに合わなければ技工士の腕が悪い、補綴物の形態が悪い、色が合っていないなど自分の技術の未熟さを無視して技工士さんのせいにもありました。そのまま進めばダメな歯医者になるところでした。今思い返せば誰が作っているかもわからず、こちらの要望だけを指示書に記入している丸投げの状態でした。その後、密に連携できる技工士さんと知り合うことができ、自分のダメなところも指摘してもらい、話し合いながら技工物を製作し真のチーム医療に少し触れることができました。

そんな中2024年のセミナーで早川先生に出会いました。そこでDental Blue Ocean計画のことを知りました。最初はシェードテイクについて勉強したいなという軽い気持ちでしたが、セミナーを受講するたびに早川先生の圧倒的な知識量や歯科界を変えたいという情熱に触れ、自分自身のセミナーに対しての意識も変わっていきました。

カメラの設定やシェードテイクに関しても今まで行なってきたことが間違っていたこともわかりとても勉強になりました。間違った情報を与えると完成する補綴物も正しくできない。当たり前のことですが、資料採得の難しさを痛感しました。

模型作りや咬合器装着、ワックスアップ、セラミックの築盛など普段あまり行わないことを間近で見学し、僕らが思っている以上に繊細な作業が見学できてとても有意義な時間でした。

今回勉強できたことは翌日には実践できることが多く、また技工士さんの苦労も知ることができるので歯科医師の受講をお勧めしたいと思います。

歯科医院はコンビニより多いと揶揄されたり、子供のなりたい職業ランキングでも歯科医師はかなり下位の順位にいます。しかし、リタイア後のシニア世代の後悔には歯の定期検診を受ければ良かったと歯で悩んでいる方が多くいます。若い世代から口腔への関心を高めていくことが大切だと考えます。また補綴が必要な際はその補綴物が長く機能できるように、歯科医師は適切に形成・印象採得し、歯科衛生士は口腔内環境を整え、患者さんの磨きやすい形態を模索し、歯科技工士によって完成させることが患者さんの利益につながると思います。その中で歯科医師として歯科技工士がベストなパフォーマンスが発揮できるようにしていきたいと思います。

今、歯科技工士さんの数も減少傾向にあり、技工士になってもすぐに辞めてしまうということが問題になっています。賃金ややりがいを確保し、臨床に対して失望しないよう努めることが必要だと考えます。歯科医師と歯科技工士は対等な立場だと、私も含め広い世代に広がるようにしていきたいと思います。

日々新しい技術や材料、デジタル化が進む中で知識のアップデートし、研鑽を積む必要もあります。まずは自分の院内を気持ちよく仕事ができる職場環境に整備して、その環境が伝播するようにしていけると良いなと考えています。

また医師や看護師、管理栄養士、保育士など他業種の人とも連携を強化し歯科の重要性を広く認知させる取り組みも行なっていきたいと思います。

終わりに早川先生にはこのような機会をいただきありがとうございました。

【今回、何を学んだか。今後の自分の目標】

今回、技工士さんと一緒に学べる勉強会に参加できてとても感謝しております。ドクターだけの勉強会はたくさんありますが、技工士と一緒に学べる会というのは本当に少ないと思います。それとやる気のある若い技工士さんと一緒に勉強できる機会というのもめずらしかったので、非常に刺激になりました。ありがとうございました。何を学んだかですが、まずホリゾンタルバーです。顔の状態、瞳孔線、口角など口腔内以外の情報も大事で、必要な情報であると思いました。接縁の位置や向きは口腔内だけではわからないということをはっきり理解いたしました。

それと石膏模型の作り方や、つぎ方、保管の仕方、外し方など、細かく勉強いたしました。できていることも多かったです。新たに理解を深めたところもあったので、院内で共有していきました。私は院内技工士がいるところで代診をしていましたので、ある程度理解していたつもりでした。より知識が増えて理解が深まったと思います。

色について、明度、色相、彩度と分けて考えるということがわかりました。それとカメラですが、明度が大事ということでシェード用のカメラが必要であると思いました。まだカメラは買えていませんが、早いうちにもう一台購入したいと思いました。なかなか高いのですぐに購入できていませんが、今年中に買いたいと思います。その時は設定を再度お聴きするかもせれません。よろしくお願いします。

メタルが異常に高くなってきましたので、今後はMBPよりジルコニアが多くなってくると予想します。当医院もそのように考えていくと思います。そうなるとうなると、今回の勉強会は本当に有意義な時間でした。ここまで世の中の情勢が変わってくると思わなかったのも、良いタイミングだったと思いました。そして何より実習で1年目の技工士さんに教えてもらいながらワックスアップをするという時間、いかに技工士が大変だということがわかりました。苦勞をかけているなという実感があります。だからお互いが寄り添って協力してやっていかないといけないし、お互いの苦勞を共有していかないといけないという意味で本当に良い機会でした。

今後の目標は、人にもものを教えるにはかなり勉強をしないとはいけません。早川先生の勉強もすごいと思いました。自分は教育者になるつもりはございませんが、少しは教えられるように日々、新しい知識を学んで勉強し、分かりやすくお伝えできる人間になれるように頑張っていきたいと思っています。

【DBO計画を終えて】

1年間を通して非常に沢山の学びがありました。第1回から歯科技工士の現状そして、どのような姿勢で今後仕事と向き合っていくのかと深い話から始まり、技工士に必要な色やカメラ、形態学などの知識、そして、CADや多色築盛の技術的な所も教えて頂きました。また、Drの皆さんも一緒にディスカッションありきで学ぶといった他のセミナーにはない、新人技工士からすれば大変貴重な機会を作っていただきました。

セミナーでは書ききれないほどの膨大な学びがあったのですが、特に私が成長出来たと感じる所が3つありました。

1つ目は社会人の常識やマナーです。当たり前や暗黙の了解になっていて、誰も教えてくれない点を厳しくも優しく指導していただけました。先生は常に誰に対しても失礼のないようにと色々な場面で気を遣っているのが一目瞭然でした。私も先生のように社会人としての意識をしっかりと持って行動や発言出来るように頑張っていきたいです。

2つ目は心構えです。2年間の学生生活は国家試験に合格するという目標で学んできました。卒業してからのことはなかなか想像もできずに具体的な目標も定まっていなかったのですが、DBO計画に参加されている皆さんは目標をしっかりと持っている方ばかりでした。その姿をみて第1回目からものすごく自分自身浅かったと反省しました。これから具体的な目標をもってどのように成長するかを考えられるようになりました。

3つ目はチーム医療の大切さを知ることが出来ました。技工所勤めだとほとんど指示書のみで会話している為、人と人とのコミュニケーションができていませんでした。今回のセミナーで早川先生や、同期のDTがDrの皆さんとディスカッションをしているところを見て初めてチーム医療を意識できました。私も先生方をお手本に仕事でも会話を増やす所からがんばっていきたいです。

このような機会を下さった早川先生には感謝の気持ちでいっぱいです。歯科技工士としても、社会人としても大きく成長することができました。これからはDBO計画で教えて頂いた知識を活用できるように日々の学びを意識して技術を伸ばしていきたいです。

【歯科界を前に進めるために出来ること】

私は歯科医師と歯科技工士が共に欠損歯列の見方や治療方針を学ぶ年間コース「救歯塾」に参加する中で早川先生と出会った。そこで日本の歯科界の在り方を変えていきたいという先生の熱い想いに触れ、深く共感した。

私自身、日頃から歯科技工士がどのような想いで仕事に向き合っているのかを歯科医師としてもっと理解しなければならぬと感じていた。そのような中でDBO 5期生としてこのコースに参加できたことは本当に貴重な経験であった。歯科技工士という職業の成り立ちから始まり、シェードテイク、カメラと3原色、咬合採得、ワックスアップ、多色築盛、プレゼンテーションの方法など学びは多岐に渡った。毎回それらを1日かけて指導される早川先生の熱量には圧倒される想いであった。

私には神奈川県平塚市にある平野歯科医院の5代目としての役割がある。平野歯科医院には院内技工士が4人在籍しており、補綴、インプラントから矯正装置まで院内で製作している。入れ歯の修理は即日で行うことが出来、日々の診療の中で歯科技工士の存在の大きさを実感している。一方で、歯科技工士という職業が十分に社会から理解されているとは言い難い現状も感じている。

その状況を少しでも変えるために私が大切だと考えているのは、「仕事の楽しさとやりがいを最大限に感じられるための環境づくり」である。これは新人技工士のみでなく先輩世代技工士も含めた環境づくりを指す。働く意味は何なのかをとことん追究出来る環境。それこそが歯科技工士が己の職業に誇りを持つことに繋がると考える。その結果、歯科技工士という職業が未来の若い世代に憧れを抱いてもらえて、いつかになりたい「夢」の一つになることこそ歯科界を前に進めるということにつながるのではないかと私はこのコースに出て確信した。

そこで、私が構想しているのが、平野歯科医院の院内技工室を「歯科技工士が輝くための学校（道場）」にするということである。技工室の中で仕事を完結させるのではなく、歯科医師や歯科衛生士、受付など多職種と交流を深めながら、診療の現場にもどんどん関わっていく。その中で感じた患者への想いや現場の温かさを胸に刻み、それを技工物へ込めていくのである。そうすれば技工は真心を込めた医療サービスへと昇華しやりがいあるものになっていき、その質を上げるために日々自身を高める意欲も上がるであろう。

歯科医療の本質は「目の前の人を大切にすること」である。互いを尊重し合い、自分の役割を考えながら医院全体が一丸となってプロとして仕事に望むことができる環境づくりこそが、歯科界を前に進める一歩になるのではないかと私は考えている。

DBO 5期での学びを胸に、私も歯科医療人として、経営者として、また教育者として研鑽を続けていきたい。まさに「狂愚まことに愛すべし、才良まことに恐るべし」の精神で修行していく所存である。これからも早川先生と勉強させていただきたいと心から願っている。

藤森 亮平

東京科学大学 2021年卒業

『DBOで得た学びと今後の目標』

今回私は早川先生の熱意に感銘を受け、DBO計画五期に参加させていただいた。私は当時、院内技工士が在籍するクリニックでの勤務経験がなく技工指示書上でのやりとりしか経験がなかった。患者様に最善の治療を提供する上で、歯科技工士との連携は必要不可欠であるものの自分にはその環境がなかったため、普段歯科技工士がどんな考えで症例に向き合い、100%のパフォーマンスを出してもらうために歯科医師側からどのようなアプローチが必要かを知り、今後の臨床に活かしたいと考えていた。

セミナーの中では、早川先生が携わった1歯単位の治療から1口腔単位の治療まで、歯科技工士目線での向き合い方を提示していただいた。私にとっては普段技工指示書上でのやりとりしかなかった歯科技工士が、チェアサイドにて共に治療に関わり、時には技工物に関して直接患者様にコンサルテーションまで行う早川先生の仕事にはとても驚かされた。歯科医師と歯科技工士がタッグを組み患者様へ最善の医療を提供するために我々は何をすればいいのか、どのようなマインドで症例に対峙すればいいのかを学ばせていただいた。

全体の治療の流れのみではなく、細かい印象や技工の手技であったりおすすめの器具や材料など、早川先生の知識や技術を惜しみなく教えていただいた。とても高いレベルの治療を実践している中で、拙い私の日々の臨床において明日からでも実践できるエッセンスも提供いただき、とても勉強になった。歯科技工士の仕事や考えを理解し、歯科医師と歯科技工士が適切な連携を行えるように、今後はこのセミナーで学んだことを日々の臨床で生かしていきたいと考えている。

セミナーの中では治療に関する事柄に加えて、現在の歯科技工士の置かれている現状や今後の歯科界の展望など、学校でも日々の臨床でも知ることのできない世界を見せていただいた。全ての回で多種多様な内容の早川先生のプレゼンテーションを拝見したが、そのどれもが根底に『歯科界を変えたい』という熱い思いがあり、このセミナーを受けた人間として、その活動に少しでも貢献できるように患者様や歯科医療従事者への向き合い方を変えていきたい。

最後に、本セミナーを主催してくださった早川先生はじめ、同じ期に共に学ばせていただいた先生方に、この場をお借りして心より感謝申し上げます。

～あとかき～

【DBO計画】修了生へ

Dental Blue Ocean計画は、修了生の
行先を照らす灯台でありたい。
歯科医療人としての航海は長く険しく、
時に荒れ狂う波に飲まれる時も
航路を失う時もあるはずです。

しかしながら、そんな時は同じ時間を
高い志を共にする同志と過ごした事を
心の支えにしてください。

灯を頼りに自分を信じて突き進み、
まだ見ぬ新天地を切り拓くことを目指して。

自分を鳥に例えるならば、鳶だと思えます。
猛禽類としては弱く、速くも飛べない。
しかし、風を読むことには長けている。

DBO計画修了生は、
鳶が懸命に育てた鷹に成長するはずです。
歯科医療人として、
強く高く舞い上がることを切に願って。

2026年3月15日

Dental Blue Ocean計画 代表 早川純

